

図書名 悟浄出立

著者名 万城目学

出版社 新潮社

タイトル「悟浄」というのは、あの有名な「西遊記」に登場する沙悟浄のことである。仲間
の悟空ほど強くなく、また八戒ほど言動が目
立つわけでもなく、いつも黙々としている、
言。てしまえば脇役という言葉がお似合いの、
そんな彼を主役に据えた作品なのである。
ただ、主役とは言ってもこの作品の悟浄は、
原作の悟浄そのままである。急にやる気を出
したり、何かを目覚めて、主役の悟空のよう
な活躍をする、などとい、た展開は言、てし
まえば、全く無い。ただ仲間の後ろで荷物を
持、て、文句を言う仲間の八戒を時々たしな
めたりしつつ、あとは黙々と観察者・傍観者
のよ、うな立場で旅路を歩、んでい、る。自分から
何かをし、ようとする、とい、た素ぶりを見せ
ようとし、ないため、読、人でい、ると最初、は、主
役、なのだ、から、も、う少し、し、かり、した、う、と、う
だ、と思、お、か、言、て、が、り、たい、よ、う、な、気、持、ち、に
な、る、か、も、し、れ、な、い。し、か、し、そ、ん、な、悟、浄、が、仲
間、の、密、か、に、抱、い、て、い、た、と、あ、る、思、い、に、触、れ、て

物語の終盤では、彼も決意をして、自分なり
の「一歩」を踏み出すこととなる。仲間たち
の後にいつもつき従、てい、て、自、分、か、ら、は、動
こ、う、と、し、な、か、た、悟、浄、が、初、め、て、自、分、自、身、の
考、え、で、行、動、を、起、こ、す、の、で、あ、る。彼、の、踏、み、出、し
た、一、歩、は、本、当、に、小、さ、な、も、の、だ、が、そ、の、一、歩、を
踏、み、出、し、た、時、の、彼、は、少、な、く、と、も、そ、れ、夫、で、の
脇、役、と、し、て、の、悟、浄、で、は、な、か、た。
こ、の、本、に、は、表、題、作、の、他、に、も、四、つ、の、短、編、が、収
め、ら、れ、て、あ、り、そ、れ、ぞ、れ「三、国、志」の趙、雲、や
司、馬、遷、の、娘、を、と、中、国、古、典、作、品、の、中、で、は、脇、役
の、立、ち、位、置、に、い、る、人、物、た、ち、が、主、役、と、な、っ、て、い
る。彼、ら、の、姿、を、通、し、て、描、か、れ、て、い、る、の、は、自
分、の、意、志、で、行、動、を、起、こ、し、た、そ、の、時、か、ら、人、間
は、人、生、の、脇、役、か、ら、主、役、に、な、る、の、だ、と、い、う、こ、と
で、あ、る。
「俺、は、も、う、誰、か、の、脇、役、で、は、な、い、の、だ、」そ
う、人、は、誰、で、も、主、役、に、な、れ、る、の、で、あ、る。自、分
自、身、の、一、歩、を、踏、み、出、す、の、だ、そ、の、時、か、ら。